

下部消化管内視鏡検査に関する説明と同意書

患者氏名 _____ 様 (ID: _____)

【目的・方法】

大腸の疾患を診断するための検査で、基本的に、抗血栓薬（血液をサラサラにする薬）などは継続したまま行います。肛門から大腸に直接内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら観察します。大腸内をきれいにするため、前日より準備を行います。必要に応じて粘膜組織の採取や色素撒布を行います。また、ご希望によりポリープ切除を行います。(抗血栓薬内服中の場合や、ポリープの大きさ・数によっては入院可能な施設へご紹介します。)

検査時に病変からの出血や異物がみられた場合には、医師の判断により、止血術などの処置を行うことがあります。検査中の疼痛や、合併症が起こった場合は、検査を中止することもあります。

【合併症（併発症）】

すべての医療行為にはリスクがあり、ある一定の確率で合併症が起こります。

本検査においても下記の合併症が報告されています（過去5年間の消化器内視鏡学会全国調査）。

ただし、下部消化管内視鏡検診による癌の発見率は一般に3～4%と言われており、病気の怖さを考えれば、検査を受けるメリットの方がはるかに大きいと言えます。

① 内視鏡による消化管粘膜の出血・穿孔 発生頻度：0.012%(8千人に1件)

② 前処置・検査に伴うショック（血圧低下等）、アレルギー等 発生頻度：0.004%(2万5千人に1件)

①②の合併症が起きた時は、適切に対応いたしますが、入院が必要と判断した場合は、入院施設への転送手配を行います。その際の診療も通常の保険診療で行われます。

【費用】 3割負担での自己負担額

下部内視鏡検査 約 5000 円

病理組織検査 約 3500 円～9000 円

ポリープ切除術 約 18000 円～24000 円

なお、初診料または再診料・投薬料等は別途必要となります。

以上の説明を受け、下記の項目に○を付けて署名をしてください。

同意します

同意しません

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

上杉胃腸科内科クリニック

患者もしくは代理人署名 _____

三島 利之 三宅 直人